

朝田構成員提出資料

1 認知症高齢者の実態把握調査 病院種別の患者特性に差異はあるか？ 速報版

筑波大学大学院 精神医学
朝田 隆

2 目的

- ・本人の状態に適した環境で生活しているか？
（相応しい医療サービスが提供されているか？）
- ・病院機能に応じた患者受け入れができていますか？
↓
- ・そうでないとしたら、その阻害要因は何か？
- ・病院種別の患者特性に差異はあるか？

→ 実態を把握する

3 調査方法 その①

日本病院会
日本医療法人協会
日本精神科病院協会
全日本病院協会
日本慢性医療協会

に所属する6,071の病院の
中から2,200病院を
無作為に抽出して調査票
を送付。



認知症患者に対応していると返答した病院に、患者特性
や入退院の動向等について回答を依頼した。

4 回収率

662病院の内訳

回収率は30%
662病院からの回答

臨床個人票
3,861枚

精神病床	244
(うち認知症病棟)	125)
療養病床	105
一般病床	307
その他	6

病院種別はもっと複雑だが、ここでは便宜的に圧縮

5調査方法 その②

- ・ 回収率向上に奏功したと思われるのは、以下の二点である。
 - ・ 未回収の医療機関に対して、手紙、ファックス、電話等で複数回、提出協力を依頼した。
 - ・ 現場の声を行政に届けたいであろう記載担当者の提出モチベーション向上を期待して、調査票の中に、ケアの工夫や問題点、認知症ケアに有効と思われる研究テーマ等についての自由回答の設問を設けた。
- ・ 回収後に入力・集計されたデータを下に、結果を纏め考察した。データの集計と解析にはSPSSver.18を用いた。

本調査票は合計8頁の全体票と個人票からなり、設問数は33問におよぶ。別紙参考資料

提出協力病院は、質問項目の多い本調査票に回答を寄せる労を厭わない性質があるかも。本調査の標本には、母集団の中でも意識の高い病院によるバイアスがある可能性も否定できない。

考察する際には、この点にも留意した。

6病院種別に差異はあるか？

まず、病院の話を聞こう！

施設概要調査から読み取る病院種毎の特性、
患者特性、入退院の経路など・・・